

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600228		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	グループホーム いたどり (ユニット式)		
所在地	北海道白老郡白老町字竹浦135番地7		
自己評価作成日	令和2年 10月 6日	評価結果市町村受理日	令和2年 12月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_unei=true&JigyosyoCd=0193600228-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和2年10月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は玄関に、事業所理念を事務所内の目が行きやすい時計の横に設置し、ネームプレートにも携行している。また、業務を遂行するにあたっての判断基準に繋げ業務を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入している。今年度はコロナウイルス感染症の影響で町内活動が中止し、参加できていないが、昨年は町内行事参加や事業所行事への参加を受け交流が図れている。また、散歩や花壇など外での活動時には挨拶など交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の様子については、情報誌を通じ町内会に回覧している。また、今年度からはブログを立ち上げ様子を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民や民生委員・町職員・家族・他事業所職員の参加のもと、定期的開催している。会議の中では実践報告や事故発生状況と今後の対策などを相談し意見を頂いている。頂いた意見はミーティングにて申し送り、今後にかせられる様に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1回発行している情報誌を送付し、運営推進会議にも定期的に参加して頂いている。その中で、事業所の実情を報告し、必要に応じ相談と協力をして頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のために夜間のみ玄関の施錠をしているが、それ以外は自由な出入りができる環境を提供している。在宅同様に、制限のない当たり前の生活ができる事を提供するよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部と内部研修にて学習する機会をもち、事業所内には権利擁護指数を提示し、個々に確認し虐待への予防を図っている。また、日頃より職員の言動に対し気をつけ、互いに声を掛け合い虐待防止に努めている。		

グループホーム いたどり (ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用している方がいるので、その都度自身で調べたり管理者に確認と説明を受けている。また、研修機会があれば研修情報を提供し、学ぶ機会を設け、学んだことなどを活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	自宅訪問や事業所にて契約書確認のもと説明している。その際、不明な点があれば都度確認し説明をしている。書面以外にも施設見学をして頂きながら説明し新たな環境下での生活に安心感を持って頂く。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて利用者及びご家族から意見を頂く機会を作っている。又、普段よりご家族が話しやすい環境をつくり、意見や要望などを言えるように努め、その事を業務に反映できる様に努力している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやグループウェアを活用し職員間の意見や提案を言える環境ができている。また、いつでも相談できる環境を提供してもらい、業務などに反映して頂けている。また、必要に応じ法人内の会議の場で報告や相談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	柔軟に勤務変更や希望休の取得ができるので、プライベートへの充実が図れている。処遇改善加算や特定処遇改善加算などの支給面や、研修のバックアップなど業務しやすい環境をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部の研修や外部への研修参加をしている。また、外部から研修案内が来た時は回覧し、各自確認し希望があれば参加できる様に勤務変更など含め配慮して頂けている。個々に合わせた研修への参加を促して頂き知識や技術の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との情報誌の交換を通じ情報共有している。また、互いの運営推進会議に参加することで、事業所内の取り組みや活動等を知り、その事が刺激や学びにもなり、自事業所のサービス向上にも繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取りにて、意向や身体状況等を確認し、その情報を職員間で共有している。入居してからは本人が話しやすい環境をつくり、いつでも要望を話せる様にしている。また、要望は傾聴し実現する事で相手が安心できる支援をしている。		

グループホーム いたどり (ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学に来られた際などの来訪時に、現在困っている事や入居に対する不安などないかの確認し、何かあればいつでも声掛けてほしいと伝え安心感を持って頂くとともに関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談部分で、ご本人とご家族から口頭で必要としている事や要望などの確認を行い、現段階での必要とするサービスへの情報提供を行う。また、必要に応じ居宅介護支援事業所や他事業所への連絡調整をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、家事作業や食事・活動など共にさせて頂きながらも、ご本人の尊厳を大切にしている。また、生活歴などの背景を確認し得意な事やできる部分を教えて頂いている。利用者同士も支え合い、生活パートナーとして共感し合える関係作りができる様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会来所時に、生活の様子をお伝えし、その中で、生活を送る上での、ご家族からの希望や意向を確認している。ご家族には行事参加や運営の意向等、ご本人を支えるチームケアの一員として参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人との関係が途切れてしまわない様に、行きつけのお店や医療機関へ行ける支援を行い、関係が継続できる様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に応じ、家事作業などは分担し提供している。利用者間で互いに支え合え、その様な気持ちがかもち行動できる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退去された後も、行事運営に協力して頂いている。その時は在籍時のご本人の思い出話や家族の想いを共有している。地域でご家族とお会いした際には世間話を通じ情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中から、思いを聞き把握に努めている。意向の確認が難しい時には具体例を用いて聞きだし、表面化しないニーズに関しては、ご家族の情報やアセスメントを行い、ミーティングなどで検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族と入居する前の事前面接や他機関から情報を受けながら、ご本人との交流によりこれまでの過ごし方を聞くなど把握している。		

グループホーム いたどり (ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のできる部分を確認し、できる事は行って頂ける様に努めている。ただ、日に応じ心身の状態も変化するので、1日2回のミーティングで個々の状況を把握し、その時々に応じた支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からの意向確認し、担当介護員を中心に職員間で話し合いながら、意見やアイデアを集約・反映した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や支援結果については記録で残し、その中で気づきなどの変化が確認された時は、記録以外にミーティング活用し申し送り職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日その時の希望に応じ、外出や買い物、入浴や受診などの実現に向け、臨機応変に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入り、近隣の地域との繋がりを持ち、町内会のイベント等に参加している。また、買い物やドライブなどで普段より町民との関りができる支援を大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の意向を確認し、受診先を設定している。入居前からのかかりつけ医への受診継続か状態に応じた新たな受診先か、ご本人・ご家族の希望を重視し決めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師によるバイタル測定など定期的に受けている。その際は、些細な体調変化など報告・相談し必要な医療を受けることができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人の状態など説明している。入院先の医療相談室へ電話で入院後の状態を確認している。また、面会時にも、ご本人の心身の状態(認知面や食事状況・身体面など)を把握し、その時々状態に応じた支援ができる様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期における事業所の方針を説明している。ご本人とご家族の意向を大切に、望まれる終末期を過ごして頂ける様に、訪問看護師や医師と連携し看取りへの支援に取り組んでいる。		

グループホーム いたどり (ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の受講をしている。また、法人研修にてAEDの研修を全員ではないが受講している。ヒヤリハット等から危険予測と対応について職員間で検討し事故予防を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練と大津波を想定した避難訓練を実施している。避難方法や避難場所・緊急時の連絡先(事業所の携帯番号)を入居者ご家族に伝え、いざという時の体制をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場所や場面に応じた言葉かけの大きさに対応し、尊厳を保つ支援をしている。ただ、時々馴れ馴れしい対応をしている事があるので職員間で互いに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	交流など普段の生活の中で、ご自身で決められる様な会話を工夫しながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで、その時々思いや考えで行動し生活ができる様に努め、できる限りご希望に応じた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で衣類を選んで頂き、外出時にはお洒落に化粧をし出掛けられる様な支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のしたごしらえや準備、配膳・下膳など、その方の能力に応じ、できることを行える様に支援している。食事を楽しめる様に食材の色合いや大きさ・食べやすさに配慮している。また、残食を確認し嗜好品の確認も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量をチェックし記録に残している。希望される飲食物の種類や温度を取り入れ、ご本人の習慣となっていたタイミングに合わせ提供し、飲食物の維持・増進を図っている。		

グループホーム いたどり (ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助必要な方には支援し、自身で可能な方は言葉を掛けながら自身で行って頂き、それでも不十分な時は必要に応じ一部介助にて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを記録し、排泄間隔や時間などの把握に努め、トイレでの排泄をして頂いている。また、水分量や気温に応じパターンが変わる事もあるので、支援の際はその部分を視野に入れ対応し、おむつの使用を、減らす努力をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や寒天など食物繊維を多く含んだ食品などを、食事やおやつにて提供し、適度な運動と腹部マッサージを行い排便を促すように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な範囲で、本人の希望とタイミングで入浴支援している。あまり入浴を好まない人へは、言葉かけにて「入浴したい」との思いになる様に努めている。また、入浴中は会話など行い楽しめる様に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや体力・習慣などに応じ、リビングや自室などで休息をとって頂いている。適度な日中の活動を行うことで、良眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬を把握について不足している部分もあるが、薬情を専用ファイルに綴り保管し、いつでも確認できる様になっている。また、薬の内容に変更がある場合は個人記録以外にミーティングによる申し送り職員全員が把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活を送る中で、ご本人の能力や気分に応じた、家事・読書・花の世話等を行って頂ける様に支援し、町内会・法人・事業所行事で気分転換でき楽しめる生活が送れる様に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時の希望に応じて、近所へ散歩やコンビニへ買い物、地域行事への参加などしている。普段の会話の中から聞かれる馴染みの場所や、家族の希望・協力に応じ、受診後に馴染みの公園で家族と散歩などへ出かけている。現在コロナウイルスで支援が狭まっているが出来る限りの支援をしている。		

グループホーム いたどり (ユニット式)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族の希望に応じ一部自己管理している方もいる。基本は管理している方がほとんどであるが、買い物などの支援の際は、ご自身でお支払いできる機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望聞かれる時は都度対応している。家族や知人から電話来た際は、いつでもとりつぎ本人と話をできる対応をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾を事業所内にほどこし、緑の観葉植物を置き落ち着ける雰囲気になるよう心掛けている。その他、強い日の光・室温・湿度などに配慮し居心地の良い空間を提供できる様に努めている。また、不快な臭いについては都度換気と消臭をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングTV前のソファ設置の他、小リビングにも2人掛けのソファと窓の横に1人掛けの椅子を設置し、いつでも一人で過ごせたり、仲の良い方と一緒に過ごせたりできる場所を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた小物や食器など、なるべく馴染みの物を持参して頂いている。家族写真などを掲示したり、洗濯物を自室で干せる様にプライバシーの保護に努め、居心地良く安心できる環境になるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ・廊下等の必要な個所に手摺を設置し、施設内はバリアフリーにて、安全かつ自由に移動できる環境を提供している。トイレや自室が分かりやすい様に目印を付け認識できやすい様にしている。		